

公的医療機関等2025プラン



平成30年9月27日

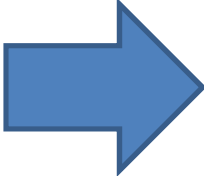
独立行政法人国立病院機構沖縄病院

Okinawa National Hospital

【基本情報】

名称 独立行政法人国立病院機構沖縄病院
所在地 沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号
開設者 独立行政法人国立病院機構

		【H30.3.1～】
<u>医療法定床</u>	320床	<u>医療法定床</u> 315床
一般（筋ジス）	80床	一般（筋ジス） 100床
一般（その他）	190床	一般（その他） 170床
結核	50床	結核 45床



標榜診療科（12診療科）

内科、神経内科、呼吸器科、小児科（休診）、外科、
整形外科、呼吸器外科、リハビリテーション科、放射線科、
歯科（休診）、麻酔科、病理診断科

【基本理念および運営方針】

基本理念



患者様の立場を尊重し高度で良質の医療を提供します。

私たち国立病院機構は

国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために
たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに
患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し
質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます

独立行政法人



国立病院機構

運営方針

- 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
- 患者様の視点に立った、温かく思いやりのある接遇
- 健全な経営基盤の確立
- 安心して療養に専念できる快適な環境
- 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

【 主たる診療機能 】

① 神経・筋疾患

筋ジストロフィー

県内唯一の専門施設としての役割を果たしている。

神経・筋難病

沖縄県では、HTLV-I 関連脊髄症、沖縄型脊髄症等の筋ジストロフィー以外の神経筋疾患の難病が多くみられ、これらの疾患に対して神経内科を中心に診療内容の充実を図っている。

沖縄県難病医療拠点病院指定(2012/4/1)

脳・神経・筋疾患研究センター(院内)設置
(2016/1/1)

【 主たる診療機能 】

②肺がん・その他の呼吸器疾患

当院の診療機能の中で肺がんおよび呼吸器疾患の占める割合は高く、専門医療スタッフの確保と共に医療機器の整備を行った結果、沖縄県における肺がんの集学的治療に中心的な役割を果たしている。

平成6年4月に胸腔鏡下肺切除の施設認定を受けて以来、呼吸器外科手術の7割が胸腔鏡下で行われている。

その他の呼吸器疾患として、縦隔腫瘍、気胸、呼吸器感染症、気管支喘息、低肺機能、慢性膿胸、気道狭窄その他の各種呼吸器疾患を取り扱っている。

肺がんセンター（院内）設置（2018/3/1）

【 主たる診療機能 】

③結核

結核は短期化学療法が主流となってきたため、入院必要患者数が大幅に減少したため、以下のとおり一般病床への転換、廃止を行っている。

- ・ 昭和57年 4月 結核 50床を一般に転換
- ・ 平成10年 6月 結核 50床を一般 40床に転換
- ・ 平成15年12月 結核 50床を廃止
- ・ 平成18年12月 結核 50床を廃止
- ・ 平成30年 3月 結核 5床を廃止（結核 45床）

当院は、沖縄県における結核医療の最終拠点施設に指定されているので、多剤耐性結核の治療を含め、DOTSの推進等適正な結核医療の推進を図っている。

【 将 来 計 画 】

当院は、国の政策医療を担うとともに、県民の健康を守るために沖縄県全域を診療圏とし、沖縄県の難病医療拠点病院、結核医療拠点病院に加え、新病棟（南病棟）の建て替えを機に『肺がんセンター』を設置し、県民の要望に応えるべく質の高い高度の医療を提供し、患者さんに満足していただける病院づくりに努めていく。

【 将 来 計 画 】

①神経・筋疾患（筋ジストロフィーを含む）

専門医療施設として、ナショナルセンター、基幹医療施設との連携を密にし、臨床研究、教育研修および情報発信についても、役割を全うすべく、鋭意努力していく。

筋ジストロフィー

県内唯一の病棟を有している施設として、今後ともQOLの向上を目指す治療とケアを提供し、在宅患者訪問看護および在宅人工呼吸管理を軌道に乗せ、この分野における中心的な役割を担っていく。

神経・筋難病

神経内科医の少ない沖縄県にあって、当院は神経・筋疾患のセンター的機能を有しており、今後とも診療水準の向上およびALS地域ケアシステムの構築を図るべく努力すると共に、在宅患者訪問看護および在宅人工呼吸管理を軌道に乗せる。

【 将 来 計 画 】

②悪性腫瘍(肺がんを中心とする)

沖縄県で最も死亡数が多い悪性腫瘍であり、今もなお発生率および死亡率の増加傾向が続いており、県内の肺がん治療の中核病院として、今後も先進的治療の充実強化、診療水準の更なる向上を目指すと共に、クリティカルパスを導入し、標準的治療法を確立する。

がん専門病院としての位置づけ

【肺がんセンター(院内)設置(2018/3/1)】

がんの集学的治療(手術・化学療法・放射線治療・気管支内視鏡治療等)の充実。

放射線治療対象の拡大。

外来化学療法室の充実

QOLを考慮した化学療法の推進。

クリティカルパスの導入し、安全な化学療法の実施。

緩和医療の推進

患者および家族の緩和ケアを推進。

【 将 来 計 画 】

③呼吸器疾患（結核を含む）

専門医療施設（県内唯一の拠点施設）として、高度専門医療施設、基幹施設との連携を密にし、臨床研究、教育研修および情報発信についても役割を全うすべく鋭意努力していく。

結核

現在の医療レベルを維持し、短期化学療法およびDOTSの推進、難治性多剤耐性結核の治療法の確立及びエイズ合併結核の治療法にも対応すると共に、増加傾向にある非定型抗酸菌の治療にも努力していく。

呼吸器疾患（結核以外）

当院は県内における呼吸器疾患治療の中心施設であり、今後とも病診連携のもとに呼吸器感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、低肺機能等の呼吸不全患者に対して専門性の高い医療を提供するとともに呼吸リハビリ、在宅酸素療法、在宅人工呼吸管理を推進する。

【 今後持つべき病床機能 】

①急性期医療

終末期（緩和ケア医療）も含めて更になん（特に肺がん）に特化した病床運営を目指し、急性期医療は維持する。

②回復期医療

現状では回復期（地域包括ケア病床）の基準を充たし病床機能を転換することが困難であるが、諸条件が整った段階で、回復期病床への転換を実施する。

③慢性期医療

沖縄県唯一の難病医療拠点病院に指定されていることから、神経難病の機能強化を推し進め、専門性の高い医療を提供する。

④結核医療

病床利用率が低下（患者数が減少）していることから、ユニット化して、規模の適正化を図り運営する。

【 具体的な計画 】

	病床機能報告		現在		将来
	(平成28年度)		(平成30年3月)		(2025年度)
高度急性期	0		0		0
急性期	1 5 0		1 2 5		8 5
回復期	0	⇒	0	⇒	4 0
慢性期	1 2 0		1 4 5		1 4 5
(合計)	2 7 0		2 7 0		2 7 0